

昭和廿年六月拾貳日

六一〇

受信一九一七〇
開始二二三七〇

詳了二三〇八

電電〇〇五二一〇九

作標〇

急

北東方面部隊

大湊通信隊



海上護備總部隊各口・舞鏡口
大海參一部・横鏡口

機密第一〇一二〇八番電

二分ノ一三

發 大警 十二AP 參謀長

本日〇二三〇北緯四三度二三分 東經一四〇度三九分(神威岬附近)

ニ於テ〇船敵潛ノ雷響ニ依リ沈没セリ敵潛日本海侵入ハ昨年以來初メ

テノコトニシテ目下日本海交通緊要ノ度ヲ加ヘツツアル折カラ之ガ必

藏ヲ要スル所各部隊指揮官ハ左ノ諸點ヲモ考慮敵潛侵入阻止及掃蕩ニ

徹底ヲ期セラレ度今次侵入ノ敵潛ハ前後ノ事情ニ鑑ミ宗谷海峡通過セ

ル算大ナルニ付北洋作戦部隊ハ同海峡ヨリ掃蕩ノ際敵潛追跡ノ有無ニ

三五六一九
五六四〇

天二Bケ十二(B)

六

宗谷、管原(正)

1.

留意之方船海制等ノ手段ヲ講ズルコト

右敵艦ハ今明日中宗谷海峽ヨリ脱出入算アリ

宗谷防備隊ハ特ニ警戒

シ海峽扼止ニ萬全ヲ期スルコト

三津輕防備部隊ハ右ニ關聯津輕海峽警戒監視ヲ強化スルコト

六一一
受信二〇八二〇
發丁二一一四
電〇五五八四
航作機本〇

至急



五航空艦隊P・七二航戦
聯合艦隊口

一三航空艦隊P
646

機密第一一〇三〇番電

宛 十三▲ 戦國機隊空輸指揮官 黒澤少佐

今次當艦隊戰國機隊全力内地轉進ニ當リ指揮官ノ連絡計畫宜シキヲ
得テ巧妙困難ナル狀況ヲ克服極メテ順調迅速任務ヲ完了セルハ本職
ノ最も満足トスル所ナリ今ヤ指導官以下本土決戦場ニ於テ新任務ニ
就クニ當リ其ノ武運長入ト致願ヲ祈ル。

通六〇七二 日一Bケ十二(一七五九〇BC)十通 楠本(秋 葉)

昭和廿年六月拾貳日

六 一四 受借一六五五 譯丁一九五五 電〇七〇九五 作 濶 〇
開始一八四五

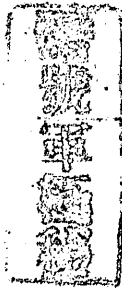


海軍總隊

佐

鐵

尸



機密第一二一三〇番電 二分ノ一

通報 第二總軍參謀長 第十六方面軍參謀長

鄂農北方地區 編成シタル佐領陸上兵力ヲ配備ノ件本府ニ於テハ陸

上防備兵力ノ編成ヲ中央方針通緩急順序第七位トシ艦上水際ニ於テ

ハ 艦上ニ航空作戰能力ヲ重點トシテ諸艦ノ作戰準備ヲ統制措置シ

アル關係上九月以前ノ實狀到底其ノ要望ニ應答得テ六月七日方面軍

司令官 本府ノ際諒承濟。

電信課誌 本電二分ノ二既配布

昭和六年六月五日 口一B六一二(三二〇〇B) 佐領 鐵 尸 (保)

昭和六年六月五日

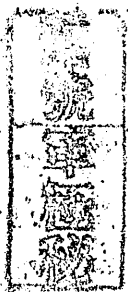


南支那海方面特情着信總所

六二二 受信 〇六〇〇
譯始 〇八一五
譯了 一一三五
電 〇六一八〇
〇六一八一
參作
本概

共 符

機密第一一三〇番電 四分ノ二



一 特根空特情 (上旬綜合)

一 第五航空軍、現在「ラプアン」作戰ニ協力シアリ

(二) 四日以降五航空軍、其ノ主力ヲ「ボルネオ」方面へ轉用シ、三

航軍ト共ニ「ブルネイ」作戰ニ密接ナル協力ヲ實施セリ

通六三九四・六二四〇 呂一Bケ八 (一七五九〇KG) 一〇通

原・吉川 (三中)

昭和廿五年六月拾四日

現在兩系爆撃機ニ依ル「ラフアン」爆撃ハ引續キ攻撃ヲ受
ケ熾烈ナリ

（ロ）五航軍爆撃機ハ「ハラワン」基地ヲ使用シ「ボルネオ」
方面ニ出撃セル算ナリ

（ハ）本旬管初五航軍爆撃機ニ依ル臺灣空襲ハ極メテ熾烈ニシテ
主力ハ高雄鳳山等部ハ基隆ヲ爆撃セルモ最近作戰開始ニ先
立テ全ク低調化セリ併セテ一三航軍ハ目標ヲ漸次西方ニ延
長シボルネオ西岸及シヤカルタ迄爆撃シアリ

三）本旬左ノ事象アリ

（イ）LL七A「LL三」・「一〇〇」系偵察機

一電信課註 本電四分ノ三四未着

昭和廿年六月拾日

六一一 受信二〇四七 了二二二五 電〇五六三〇九 參作 本機 649

作

横領戰艦機報着信艦所

機密第一一一三二五番記 二分ノ六ニ

一、三一二九約三〇〇機三箇集團ニ分レ〇六五〇頃ヨリ〇九〇〇ニ亘リ

千葉板橋及横濱南部地區竝ニ下田附近ニ分散攻撃ヲ加ヘタル後〇九

四〇頃迄ニ鹿島灘及九十九里濱一都相模灣ヨリ除去又P一五一

約七〇機〇八〇〇頃際ニ集團ニ隨伴御前崎及伊豆南部ヨリ侵入靜岡

地區及厚木木更津附近行動後南方ニ除去セリ横須賀地區來襲セズ

二、航空戰艦係横領第三航空部隊戰艦機報所報達

三、地上砲火ニ依ル戰果ナシ

通六一四〇、六一五七 自一〇ケ十二(一二六KC)横通放 尾島、石川(土 谷) (-)

四、被害

(1) 土浦航空隊建物全焼一八棟戰死約一〇〇名

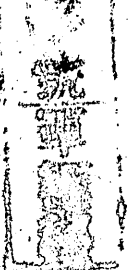
(2) 氣象校建物全壞二棟半壞一棟戰死二名

(3) 土浦仁會集會所全燒右ノ外東下田海軍設營隊^部ニ於テ死傷約三〇

名ヲ出セル外横領關係被害輕微。

18 P

行



發 GEB 參謀長

作

至急

六一一

大湊警口

大海參一部・海軍總隊口・一〇四戰隊

機密第一一五〇六番電

共 符

電〇六二七九

艦政 作概 ()

昭和四年六月十四日

宗谷海峽ノ對潛機雷堰ヲ急速完成ノ要アル處常警高榮丸ハ當分使用
不可能ニ付永磯丸等ニ新興丸及石崎ヲ使用シ敷設促進ノコトニ取計
ハレ度

尙敷設現狀(機雷ノ準備及計畫)概要知ラサレ度

第一六六六 月一三十二

(渡明)

六一一 通信一九二五 開始二〇〇〇 譯了二三〇〇 電〇五六八三
航作概本

昭和廿年六月拾貳日



支那方面艦隊口
東通・中支部隊口・一護衛艦隊口

上海特別陸戰隊

機密第一一六二四番電 二分ノ二

發

上海地區海軍防衛指揮官

通報 先

海軍總隊口

大本營海軍參謀部第一部長 海上護衛總司令部

戰 岡 概報第八號 (六月十一日)

一〇一三〇ヨリ約二時間敵B一三九延三機上海地區ニ侵入松井通

(秘密滑走路)ニ投彈

二 戰果 被害ナシ

三 敵ハ四月上旬ヨリ連日少數機ヲ以テ主トシテ揚子江口附近ノ航行
遮斷ヲ實施四月下旬ヨリハ夜間上海地區ニ侵入シツツアリ尙六月
八日ヨリ茂地並ニ滑走路ニ攻撃ヲ指向セルハ注意ヲ要ス
六一一五 六〇五五 四九三〇 上海(半澤)

人

六 一二、受信 〇〇九三〇八

譯了 一〇三〇

電 〇〇五八二二

作 〇

共

符



北洋作戰部隊・第六五號海防艦・國後海防總隊指揮官・大警尸

機密第一一二〇三四番電

二分ノ二

宗防部隊信電令第一號

六月十日敵潛初メテ石狩灣頭ニ侵入スルヤ國後海防艦長ノ指揮スル
攻撃隊ハ國後海六五ノ急速出動六五ノ積極果敢ナル攻撃ニ依リ十
一日〇二三〇遂ニ之ヲ北緯四三度五三分東經一四一度〇五分ニ捕捉
匿沈セルハ大イニ可ナリ各艦一隊ハ今後更ニ熾烈化スル當方面對
潛作戰ニ備ヘ周密ナル計畫ト積極果敢ナル攻撃トニヨリ見敵必滅誓
テ任務遂行ヲ期スベシ。

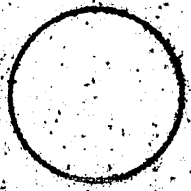
通六二六九
通六三二七

天三日午四(四〇七五)占通・大湊通長谷川(林部)

昭和廿年六月拾貳日

六 一二 受信 〇〇九五一〇五 〇〇五九八八六 〇〇五九八八六 〇〇五九八八六

至 急 高 通



第一航空隊 第二遣支隊 和道・一〇通

機密第一一二一四三番電 三分ノ一二三

通信課報綜合(十日)

一、南西諸島及中部太平洋方面

(1)以後ノ機動部隊ハ依然活潑ニ策動中ニシテ且南西諸島方面ト菲島トノ關聯又密接ナリ特ニ菲島基地所屬天候偵察兼爆撃機(比島東方海面哨戒中ノモノ)ガ沖繩方面基地(各指揮官)ト直接通信ヲ

實施セルハ特異ナリ

六三九六六三八六 呂一Dケ十二 (七七〇五七) 高 渡木・今村(阿波) (一)

(一) 尙本天候偵察機ハ非島南部所在艇母トモ直接通信ヲナセリ

(ロ) ウルシ島方面ニ指向先導艦部隊ハワイ發マシマル海域行中ノ
 狀況アリ
 二、 菲島方面

(イ) ボルネオ方面ニ對スル後續部隊ハ依然トシテモロタイ方面ヨリ活

潑ニ行動中ノ狀況アリ

(ロ) オロンガボ方面尙艦船集結ノ徵候アルハ注目ノ要アリ

同基地出現P型式ニテ極メテ活潑低下狀況ヲ示ス外マツカト号
 一トモ關聯ヲ有シテリ

(ハ) 航空機繰出系五一機内哨戒機ノ飛翔三九機ニシテ哨戒機ハ引續キ
 嚴重ナリ。

六 一二 (文書ニテ受)

電〇五七五六 通 般

昭和廿年六月拾貳日

中國海軍監督官事務所岡山出張所

關係各縣

岡山	備前	備後	備中	備前	備後	備中
岡山	備前	備後	備中	備前	備後	備中
岡山	備前	備後	備中	備前	備後	備中
岡山	備前	備後	備中	備前	備後	備中
岡山	備前	備後	備中	備前	備後	備中
岡山	備前	備後	備中	備前	備後	備中
岡山	備前	備後	備中	備前	備後	備中
岡山	備前	備後	備中	備前	備後	備中

654

密

當監、張電、報、取、取

取、取、取、取、取、取、取、取

取、取

當監宛電報發信ニ際シ左記勵行相成度然ラザレバ事務處理上不便甚シキノミナラズ着信遲延ノ爲電報ノ意義ヲナサザル事例益多發ノ狀況トナルニ鑑ミ各取扱者ニ右周知徹底方取計相成度

記

一、當監管區 (岡山、鳥取、島根三縣) 關係ノモノハ總テ直接當監宛發

信ノコト

當監關係ノモノニシテ中國海軍監督官事務所宛發信シ之ヨリ當監ニ

連絡又ハ發送セラルル場合アリ又二十年一月以降ノ新監督官管區不

知ノ爲鳥取、島根縣關係ノ分ハ舊神戸海軍監督官事務所宛發信シ之

D

1.

ヨリ中國海軍監督官事務所ヲ經テ當監ニ送達セラルル例少シトセザル現狀ニ有之

尙電報以外ノ書類ニ付テモ三月十三日海軍公報所載（三月七日陸本機密第一一號ノ三三七七）ノ適當監宛直送方取計ハレ度

ニ當監關係暗號電報ハ必ズ當監（岡山出張所）宛發信ノコト

當監各分室（玉野、水島、松江、境）ハ何レモ暗號書ヲ所持セザルヲ以テ暗號電報ニシテ各分室ニ直接着信セルトキハ總テ岡山ニ廻送翻譯スルヲ要シ爲ニ機敏ヲ要スル事件ニシテ處置ノ機ヲ逸スル懼少シトセザル狀況ニ有之

（終）

昭和廿年六月廿九日

大 六
急 十二

受信 一三一〇三
譯始 一三一〇三

譯了 一四〇五

電自 〇〇五九〇〇二
至 〇〇五九〇〇四

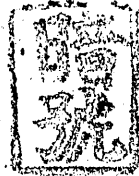
作 概 〇



海上護衛總隊 各鎮 大營 阪營 七艦隊各 航空艦隊 三航空艦隊 五航空艦隊 一〇一航戰 一〇特攻戰隊 鎮營

一三一〇八四八

655



發 〇 B 參謀長

通報 第一、第二軍、第五、第一一、第一二、第一三、第一五、第

一六、第一七方面軍各司令部

鎮守府、警備府、陸上作戰擔任地域ノ外ニ所在スル海軍部隊ハ陸海軍ノ陸上作戰準備ニ於テ間隙ナカラシムル爲陸上作戰指揮轉移前ニ在リテモ所在陸軍上級指揮官ノ陸上防備計畫及之ニ必要ナル鑛城並ニ教育ニ關スル指示ヲ受クルコトニ定メラレアルモ（總軍總隊協定

参照）

通自 六四四九

協作（ B ） 春 P

小春 高橋（増田） 岩佐

(1)

右趣旨が未だ各部隊迄到達セズシテ兩軍ノ連絡上不備ノ尙アルヲ以テ各
部隊ニ對シ右趣旨ヲ明示シ之ガ徹底方取計ハレ度。

(2)

至急

六一二 受信 一六四〇〇 譯丁一八三〇 電 〇〇六〇〇九八 航作 〇〇本



東 通 鹿屋航空基地

機密第一二二〇三五番電 二分ノ二

航空本部總務部長

通報 第三十一航空廠長 山陰空司令

六月五日美保基地ニ於ケル陸上攻撃機ノ實情ハ保有三一有効(今

後七以内ノ整備或ハ修理ニテ實動ニナリ得ルモノト實動トノ和)

二三實動一〇トナリタルモ其ノ主因ハ左ノ通ニシテ至急對策ヲ得度

燃料油「タンク」漏洩ノ類發最近二週間ニ一機發生一部水

機中輸送又美保ニ工具ノ派遣ヲ得テ修理セントシツツアルモ之ガ

防止ノ機本對策特ニ金屬關係修理能力板メテ之シキニ付之ガ強化

關シ然ルニ配慮ヲ得度

一九四七年 五月廿十二(一〇二六五KG)五AEP 今村(渡瀨) 淺田

昭和廿年六月廿二日

六一二

受信一七四五
開始二〇〇〇

譯丁二一三〇

電〇六〇九七
〇六〇九八

作 概〇

昭和廿年六月拾貳日



● 第四哨戒部隊

● 七艦隊各下・博多港警備隊

● 第四哨戒部隊

機密第一二一一五八番電

二分ノ一二

北九州防備隊電令作第一號

博多出入港船舶ハ現在ノ第二掃海水道ノ航行許可中ナリ

武蔵丸第一山嶽丸ハ夫々D點(玄海島海岸)一七三度八二〇〇米

及B點(玄島海岸)一四八度三五〇〇米附近錨泊敵機ノ機雷敷

設テ阻止警備シ之ガ監視ニ任スルト共ニ敵潛灣内侵入ノ場合ハ之ヲ

追跡スベシ

十三日〇八〇〇出環特令ニ依リ撤哨スルモノトス

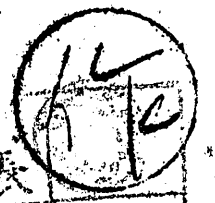
馬場艦艇變ノ場合ハ灣内便宜ノ位置ニ避泊スルコトヲ得出環中三艦對潛

警戒トナシ。六六二一 天二Bケ一二(B)二一三 竹内(新井)

六一三 受信〇六〇五 譯了〇九一二 電〇六三〇六

多作 本概

昭和廿年六月廿四日



千島防備部隊戦闘指揮所

航空基地

機密第一二一三五二番電 二分ノ一

戦闘機報「松輪島地城六月十一日」

一八二〇、一三七度二十六分、我ノ不明艦船五隻内外捕捉一八

五〇ヨリ一九二〇間ニ概ネ七〇〇〇米一八〇〇〇米ニテ砲撃後一二〇

度方向ニ避退セリ發射彈數約三〇〇〇發

三、戰果ナシ

被害

航空基地飛行機指揮所中破送信所兵舎一棟大破

（電信課駐本電二分ノ二未着）

通六八九〇 天四Bケ七（一二六知）横通放宇田（塩田）



六一三

受信開始 〇七五三

了 〇八四〇

電 〇六二三四
〇六二三五

作 檣

第五二警備隊

千島防備部隊戰術情報着信艦所

機密第一二一九〇七番電

二分ノ六二

第二警備部隊戰術情報第二〇時（武蔵地區六月十二日）

一第一次〇六四五敵機二乃至三機低空ニテ二八〇度方向ヨリ侵入武蔵灣

機橋沖ニ爆彈敷投下摺鉢灣方向ニ避退セリ

二第二次〇七一九敵機二七〇度方向ヨリ侵入海嶽ニ爆彈投下摺鉢灣

方向ニ避退セリ（第一、二次共ニ視界不良ノ爲機橋機數不明）

四發射彈數第一次十三発機銃七二發第二次ナシ

五天雲細雨視界三〇〇メートル

部長	六六	六六	六六	六六	六六	六六
A	八八	八八	八八	八八	八八	八八
B	九八	九八	九八	九八	九八	九八
E	四五	四五	四五	四五	四五	四五
J	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
〇	一二	一二	一二	一二	一二	一二
〇	二六	二六	二六	二六	二六	二六
〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇

横須賀

大内（松井）

昭和廿年六月廿四日

659

昭和廿年六月拾日

六一三

受信開始 〇三五五
〇五一三

譯了 〇六二〇 電 〇六一五四

航作 概 66本〇

緊急



二五特根戰艦着信艦所 三南遣艦隊中、各

機密第一二二二〇五一番電

三二九警戰國概報 イ

〇九〇〇單發ニボバレ島銃擊戰果被害ナシ

ニタルバ出港小型ト一油槽船一針路東、ト一大型上陸用舟艇四針路北

入港ト二海上トラック二一(滿載)、碇泊一八〇〇ト大型九中型六

小型八大型油槽船二病院船一ト八驅潛艇五魚雷艇一〇海虎二九大型

上陸用舟艇一八舟艇三〇

三石口夕イ發進機針路北乃至西大型計一五其ノ他煙霧ノ爲不明。

三六八六三 呂一B(六一二二三五)二二二。 菅原(吉田)

内

六

六三三三

受信 二二〇五

譯丁 一六〇〇 電 〇六三六七

作 概 〇

兼井



吳 防 戰

吳海 領上 護衛 隊 部 隊



661

機密第一二二一四〇番電

吳防 戰 機密第一〇八一七〇五番電報告

機雷位置「ミノ」島ノ一二七度七四〇〇米ニ確認音響掃海及三式掃海

ヲ實施シタルモ處分出來ズ漁網一二五度ノ海岸ニ曳航引揚シツツアリ

機雷ヲ認メラレズ

右ヲ檢査ノ結果艦上機ノ補助「タンク」ト思考セラル

通六九七〇 天二〇() 吳 大石(言)

昭和廿年六月拾四日

昭和廿年六月拾四日

受傳一七四〇五 一八五〇 電〇六四八九 統作概本〇

● 松山空基地

一七一空

（通報表示）一機動基地航空部隊

機密第一三〇九〇〇番電

發 一七一空派遣隊指揮官

宛 一七一空飛行長

昨十二日午後ヨリノ降雨ノ爲飛行場地地面軟弱トナリ大型機ト雖

モ離着陸ハ注意ヲ要ス各所ニ通報アリ度

鹿屋基地機密第一二一九一一番電ニ依レバ今次紅協力輸送機

（六七號）ノ模様ナルモ人員數及物件量（寫真機六組ヲ含ム）

ヲ考慮シ二機動力ヲシムル様手配アリ度

通七二四四 於十六（七八七五KG）一KREB放 小林（石井）

昭和廿年六月拾四日

六一三 受信一六二一 電〇六四五八 作概〇
開始一七一〇 電〇六四五九 航本
力

緊急

324

東 横 通 通

南島警備隊司令

機密第一三一四五番電 二分ノ二

宛 南島警備隊司令 第一六潜水隊司令

一 敵情報 横須賀參謀長 大海軍力補給部長 横須賀軍需部長
本月二日以敵機潛出現顯著ナリ

二 敵飛行機來襲 飛機本月ニ入り急ニ閑散トナリ 二日八日各B1二四
一機十二日B1二四及PBY各一機偵察及四日B1二四 十三機

PBY一機ノ爆撃及偵察アリシノミ(一〇三〇一三三〇ノ間以
外ニ來シコトナシ) 偵察ハ北方ヨリ島上通過ノモノ一回他ハ

通七〇七〇・七〇五八 天二Bケ十二(一二六KC) 横放 (伊藤・石川
(半) 澤)

「サイパン」方面ヨリ來襲同方面ヨリ來襲ヲ例トスルモ昨十二日ノ
 來襲ハ距離二萬米低高度ニテ約五〇分ニ亘リ東方海面〇度
 及一八〇度方向ヲ丁寧ニ偵察セリ威嚇偵察ナリシモノノ如シ
 三補給ノ好時機ト認ム。

六一三

受信一八三〇五

譯了一九五五

第〇六四〇二

作

昭和廿年六月拾四日

作

父根ト戦闘概報着信鑑所

父

通

機密第一三一二四一番電

父島根據地隊戦闘概報（六月十二日）

一、〇八五三P、五一、一三機（増槽二箇ヲ有ス）西方一〇軒ヲ撃つ島北

方迄北上〇九二五東方至近ヲ南下セルモ侵入セズ

二、一四〇五P、一五一、一〇機來襲内八機飛行場南北端及海沖二十數發

投彈

三、晝二回夜間二回哨戒機北上ヲ探知セリ

四、戦果被害ナシ。

通七〇六三

ロ一、ケ一、二、三、九、八、五、K〇、七、P、Q、B、放

金子

0302

664

六 一 四
緊急

作

受信〇二四〇
譯始〇四一一

譯了〇五三四 電〇六六二三

參作
本概

八警備隊

着 二三根 戰闘概報 着信艦所

機密第一三一七〇八番電

戰闘概報 (六月十三日)

一、夕リセ〇七四〇 双發一機 進行方向北西

二、ピルトン〇七四五 四發一機 侵入シ、ハサレ、南方

三、反覆攻撃後一〇二五 東方ニ退去ス

三、ゴロント夕日十二日二五五ヨリ一二三〇B一機 侵入

元郵便局附近 投彈(二個) 後南東ニ去ル

被害 ナシ

通七三七〇 呂一Bラ十八(六一三五K)二一通 奥野(増田)

昭和廿年六月拾四日

665

昭和廿年六月廿四日

六一三 受信三三〇二 解了二三四一 五〇六五三一 作概〇

緊 急 大 通



海 護 總 隊 東 通
一〇四戰隊

機密第一三一九四五番電



發 大齋參謀長

宛 大海參一部長 軍務局長

〇 機密第一二二一四三番電關聯

本電ノ通海防艦ヲ配用スル場合ニハ北洋漁業送込船ニ重大ナル支

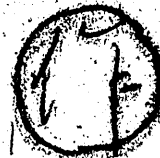
障(差當)ヲ六月中旬六隻ガムチヤツカニ向ケ内地發豫定向引續キ

千島及カムチヤツカニ向ケ約八隻發航セシムル要アル 處之ニ充

當ヲ得ル海防艦僅ニ四隻)ヲ來スニ付本件ニ關シ指示ヲ得度。

通七二三五 五二八々十二(四〇七五) 大發 片山(石井)

至 六
 一五 受領二〇五三
 六五 開始〇一五〇
 丁〇三三五 電〇七四六一 作概〇



大海參一部・海軍線除口・支那方面艦隊口
 香港・厦門各根口・高麗口・海峽口・廣東警備隊

總務第一五一七〇四號電

戰時海軍十四日

二〇〇〇の敵艦艇ヲシキモノ一隻南方ヨリ高速ヲ以テ馬尾州ニ近接約
 三〇分間艦砲射撃ニ約六〇發ノ發ヲ繰返シ射撃ヲ受テ派遣隊之ヲ廣戰艦退
 避艦兵會破壞人員異狀ナシ

通八三四八 天一五七七四七〇五七(高) 通 田中(五) 島)

昭和十年六月拾六日

二十四日夜同飛行機收容時、状況左通

- (1) 飛行機、甲板投弾白色二個以下
- (2) 航空母艦及跡投線配置艦、青色燈二個甲板
- (3) 飛行機、舷燈、之奥等連絡母艦收容時甲板上

相當明ル。

(=)

六一五

至急

海護總部隊

海上護衛總隊

電〇七五七九

海作監本
〇(電)
667



次官。海運總監部。海軍總隊。船舶司令官

機密第一四二一四八番電

帝國ハ本土決戰ニ備ヘ船舶稼行率ヲ極度ニ發揮シテ來ルベキ最短期
間ニ^ハ大ナル物資ノ本土移入ヲ完結スルヲ要ス
而シテ諸般ノ戰況ハ右移入ヲシテ日本海ニ依ルノ外ナカラシムルノ
情勢ヲ馴致シアルヲ以テ帝國ハ幾多ノ犠牲ヲ忍ビ船舶ハ固ヨリ港灣
及運輸等諸般ノ施設ヲ陸續日本海方面ニ移轉シツツアルノ秋ニ當リ
不幸敵潛ノ日本海侵入ヲ見タルハ帝國ニトリス大ノ脅威ニシテ之ヲ
速ニサル又除スルニアラズンバ本土決戰準備ハソノ根底ヨリ覆サル

通
二二二
三一五
一〇〇九

天二日ケ十二

(小澤綾)

昭和十年六月廿七日

ル虞アリ 斯クテ日本海ニ於ケル對潜作戰及護衛ハ現下帝國作戰ノ
最大眼目トナレリ海上護衛總部隊各員ハ本作戰ノ衛ニ當ルノ重責ト
光榮トヲ想ヒ善謀奮戰ノ限ヲ盡シ一日モ速ニ敵潜ノ出入路ヲ完封ス
ルト共ニ既ニ侵入セル敵潜ハ一隻タリトモ生還セシメザランコトヲ
期セヨ

入

二〇六四

其符

電〇七五四三 護敏

昭和廿年六月拾六日

至急

作

海護總部隊

海護總部隊 P.P. 各地在勤武官
大海參一部 軍務局 運輸省 海運總監部

機密第一四三三三番電

668

奈 G E 日 參謀長 通報 曉部隊各指揮官

機密ニ依ル被害船舶申指定航路ヲ遵守スルニシテ 能需スルモ、依

然ル多数ヲ占メル正處之ヲ指道等是正ニ依リ 船舶被害率ヲ著ク

減少スルヲ得ルニテ 確實ニシテ P 機密第一三〇九二九一 電ノ如ク

適当ナル士官ヲシテ 小型船舶ニ機密 船舶運送等ニ 兼航地運

航業務者ニ對シテ 航行管制關スル事項ヲ巡 請徹底ニシテ 或ハ

各海上交通保護機密 衛航 船隻及見張所等ニ於テ 遲滯

ヲ且徹底ニ航 行指示ヲ與フルニテ 嚴ク必要有知ルニ 段ト認ル

三付各部隊於テ 此際一段 五天 努力方 取計ハレ度

三二七六

天三三

(急用)

台湾航空隊

昭和廿年六月拾八日

六一五 受信一五三〇 譯了一七四五 電〇八〇五七 作 概
譯始一六四二

緊急

臺灣空

臺灣航空隊

高警戸・高根▽・馬根▽

機密第一五一〇一八番電 二分ノ一

發 藤松大佐

本日臺灣空解除ニ伴ヒ本職茲ニ退隊ス 在隊期間短少ナリシモ全員
克ク本職ノ意ヲ体シ本務ニ邁進シテノ戰果ヲ收メタルト共ニ陸戰ノ
準備又大ニ進ム 本職最後ニ諸子ノ健康・

一電信課註 本電二分ノ二未着

通八〇九四 出B (一一一三四七、五〇〇) 候々谷

片山(山中)

4

0312

六 一八五 受信一〇三〇〇 譯了一〇四五 電〇九三二九 作 概
緊急 開始〇九三〇〇

停

臺灣航空隊 高警尸・馬公根下・?

機密第一五一〇一八番電

二分ノ二

尙此ノ間悠久ノ大義ニ殉シタル諸勇士ノ英靈ニ對シ 一層戰局益々
緊迫國事愈艱難ナリ諸子更ニ奮勵努力ヲ獻慮チ安ジ奉ルベシ。

一電信課註 本電二分ノ一既配布
一東 通註 再送要求ノ爲遲延ス

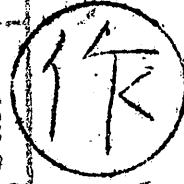
通八四四九 呂一Bケ十二(一二〇〇KG) 蟹ヶ谷 丸山(上野)

昭和廿年六月廿日

670

六一五 受信一四三〇八 譯丁一五一五 電〇七二八七 作概

作戰緊急



● 内南洋方面部隊戦闘概報着信艦所

● 無線艦所用共通符號

機密第一五一—三八番電

内南洋方面部隊戦闘概報(六月十四日其ノ一)

○八四〇巡洋艦四隻(内二隻オレシ一型但砲塔三聯裝三基一雙ジユバ
ノバ型但後部砲塔一)驅逐艦二隻(ヂヤペリン型)東方ヨリ近接〇九
一五ヨリ一〇二〇迄環礁外ヨリ射程一五〇〇〇乃至二〇〇〇〇米ニテ

夏島竹島春島未島砲撃各艦約二〇齊射ノ上一〇四五視界外ニ去ル
被害ナシ。

通八〇四二 呂一五ケ十二(一七六三〇KG) 四週 半澤(土谷)

昭和十一年六月拾六日

人

昭和廿年六月拾六日

第一五二〇三五
受信二〇四五
開始〇〇四〇
譯了〇一三〇
電〇七四五九
作概〇

至急
東通
一〇方面艦隊口



機密第一五一一四〇番電

宛、東京中央

西離島ニ對スル緊急輸送殘存「アングマン」陸軍兵力抽出輸送ハ戰局
情勢ニ鑑ミ是非ハ共施行ノ要アルトコロ二次ニ亘リ昭號作戰及機帆船
ヲ以テスル常續補給ニ於テ水上送艇ヲ以テシテハ成功ヲ期待シ得ザル
ヲ實證セリ抑留濁者ノ首送隊配屬方都合至急返

通八二三〇 昌一ロケ十二 (一七五九〇) 一〇通 田中 (三石)

0314

六一五

開始一六四三〇

了了一七〇〇

電〇七三〇六
七

作 誌

昭和廿年六月拾六日



大臣 海軍總隊P・三航空艦隊P・各隊各警各戸
第五航空艦隊P・第一〇航空艦隊P

大阪警備府P

機密第一五一二〇七番電 二分ノ二

戰鬪機第二一號 其ノ一

六月十五日〇八四五ヨリ約二時間半ニ亘リB I 29 約三二〇機大阪西宮
堺方面ニ來襲焼夷彈投下天王寺藥港都島大阪驛及警備府附近火災發生
ニ警備府木造家屋焼失(戰鬪司令所及人員被害ナシ)川西寶塚工場一部
火災發生守口送信所管制線被害(應急通信中)
ニ敵小型機約二十機神戸及奈良縣南部ニ侵入機銃掃射ス
四ノ機銃果被害調査中。

通 八八〇〇七四〇六

口一Bケ十二(六)

B (阪警)

中谷島 (竹 内)